

高津区おはなしアーカイブ

- 沼田 忠男（ぬまた ただお）さん
昭和16年生まれ 75歳
川崎市高津区蟹ヶ谷在住



◆子どもの頃の思い出

このあたりは静かでしょう。近くに幹線道路もないし、閑静で住みやすいところですよ。8月初めに家を新しくしましたが、前に住んでいた家は築百年でした。ずっと蟹ヶ谷に住んでいます。昔はここから武蔵中原の駅が見えましたね。

私は五人兄弟の長男です。上から四人の男が続いて、末が長女になります。

昔はどこも農家でね。蟹ヶ谷には15～16軒の家がありました。昭和30年代に都市化されて家や工場が増えたりするのですが、それまではひっそりとした田舎でしたね。

子どもの頃は家の周りや畑や山で遊びました。ベイゴマやメンコ、山ではチャンバラごっこをしてね。勉強より遊びの方が好きだったね。あの頃は男女でまとまって遊んでいて、いつ誰がどこにいるかもわかるような関係でしたね。

でも農家でしたから、日曜日は家の手伝いです。うちでは米のほかに、トマト、きゅうり、茄子、ほうれん草、大根、小松菜などの野菜を作っていて、市場へ運ぶ手伝いをしました。リアカーの後押しです。市場は沼部（大田区）、そして新丸子にありました。車がないから歩くしかないのですが、山で遊んでも、家の手伝いはよくしたものです。大人になってからはオート三輪や軽トラックでしたが、そのころはリアカーでしたね。

牛も一頭飼っていました。米作では牛を田んぼに入れて、力仕事をしてもらうのです。ただ牛は繋いでおいても逃げようとするから大変でしたね。エサも与えないといけないし肉体労働でしたよ。

◆戦中戦後

戦時中は蟹ヶ谷に羽田と成田を結ぶ無線電信基地がありました。基地を狙ってB29や焼夷弾も襲ってきましたね。基地のそばに防空壕があつて中に入れられたことを覚えています。父は出征して外地（フィリピン、マニラ）で戦ったそうです。昭和21年に復員してきましたが、弾が顎から歯

を貫通して、左手の肘も負傷した傷痍軍人でした。右腕一本では畑仕事ができる状況ではなかったから、もっぱら母と祖母が農業をしていました。大変だったと思います。

当時は近所の家もみんなそうだったし、苦勞を苦勞とも思わず、全部まわりと同じようにして暮らしてきました。今は贅沢な時代になりましたね。



<橘小学校 校舎>

小学校は橘小学校です。昭和22年に入学して28年に卒業です。橘小学校の校舎は戦時中の爆撃にも遭わず無事でした。子どもの足で片道30～35分かかりましたね。クラスの中で一番遠かったから、晴れた日はいいとしても雨や風の日は大変でした。いつも友達と2～3人で歩いていきました。

1学年は4クラスです。給食はなく、お弁当を持って通いました。当時は梅干し一つの「日の丸弁当」、恥ずかしくて弁当箱を包んだ新聞紙を顔の前に立てて、みんなから見えないようにして、素早く食べたりしましたね。中学校に行く頃には卵焼きや海苔も入るようになりました。



<橘小学校（手前）と橘中学校（奥）>

中学校は新しくできた橘中学校で、私は二期生です。当時は西中原中学校へ進む人が多く、新しく橘中ができて西中原中に行かなかった人が一期生として集まり、翌年、私たちの学年が皆揃って入学したというわけです。校舎は一棟で一学年3クラスでした。地元の友達も一緒に進学しました。

できたばかりの運動場は整備が必要で、山からトロッコで岩を運んだり、ローラーを手で引いて整地をしたりしたことを覚えています。

中学時代は体育会系で、陸上部に入り、短距離の選手でした。蟹ヶ谷の近所の方から「足が速いんだってね」って言われて「みんな、よく知っているなあ」と思ったものです。

◆当時の暮らし

買い物はたいてい元住吉です。歩くか自転車で行きました。中学に入って、元住吉のそろばん塾に通ったのですが、同じく歩くか自転車しかありません。30分くらいかかり、夜は暗くて怖かったですね。

昭和30年頃まではこのあたりに桜並木があったのですよ。矢上川の井田堤というのがあって桜の名所でしたね。テレビはまだなかった時代でしたが、新聞やラジオで紹介されました。樹齢60～70年の大きな桜の木もありましたね。ところが川が狭くて水があふれてしまうため、何回かに分けて護岸工事を行いました。川が氾濫すると、畳の上まではこなかったけれど、低い土地は床下浸水で水浸しになるし、田んぼや畑にも被害が出ましたね。覚えているだけで4～5回はありましたね。

その整備のために桜の木を切ってしまったのです。昔は桜並木のトンネルが人気で、季節になると多くの人が集まったけれど惜しいことをしました。全部ではなくところどころ残しておけば、良い桜の名所になったと思いますね。

◆サラリーマンから再び農業へ

高校を卒業してしばらくは農業を手伝っていました。「農協に就職しないか」という誘いもあったけれど、知り合いだけでしたから、農協には入らず大井町にあるニコンに入社して21年間勤務しました。

40歳の時、高齢だった両親が心配だったこともあり、サラリーマンを辞めて再び農業をすることにしました。昭和56年です。同時にJA（農協）の組合員にもなって橘農協から中央農協の広報の編集委員や企画なども手がけました。他に高津区交通

安全協会の会長や、自治会の副会長、現在は保護司もしています。

◆蟹ヶ谷

「蟹ヶ谷」という地名にはいろんな説があるようです。同じ高津区内の「梶ヶ谷」とはよく間違われますけれどね。蟹は横に歩くこともあり、山に囲まれた谷をイメージしたものだったのか、それとも井田城の「神の庭」が「かにわ」となって「かにがや」になったのか。

このあたりには昔の古墳があって、その「蟹ヶ谷古墳群」一帯は「神庭（かにわ）緑地」になっています。鎌倉街道の通り道でもあり、「曲がり松」は別名「鞍掛けの松」と呼ばれ、源頼朝公が馬で走ってきた時、鞍を松にかけて一休みしたという話も伝わっています。

地元神庭（かにわ）地区の八太（やふと）神社は毎年10月10日が祭礼です。昭和12年から続いています。子ども神輿や樽神輿を担いで練り歩きます。

沼田の家は「番場」という屋号でね。川がくねくね曲がっている、その番人ということで、代々このあたりの山の管理者でもありました。子母口にある菩提寺によると、私で12～13代目になるそうです。

蟹ヶ谷に団地ができて、マンションも増えて、まわりの風景も短い期間にだいぶ変わりました。10年ほど前に市道尻手黒川

線の「明津」交差点の名前が「蟹ヶ谷団地入口」になっています。

もし新しく越して来る方がいたら、マンションの方にもぜひ自治会に入っていただきたいですね。災害があつたりすると近所のつながりが大事になるし、地域で生活を支え合うことも必要になってくるからね。

蟹ヶ谷は今も自然に囲まれた静かでないところでは、ありません。これからもずっとここで暮らします。高津区全体に言えることかもしれませんが、町が家族的なのも魅力ですね。

(平成28年9月6日取材)